

とよたち美肌通信11月号 V01.40

佐藤匠 11才

大きな満月にかかる雲。すすきの穂が風に揺れ、ひらりとんぼが飛んでいます。

月明かりを浴びたとんぼの羽が、きらりと月を反射しているようです。

お団子を供えられた風情ある今月の表紙です。

うさぎがちょこんと、お団子を頂きに来たのでしょうか？

絵を描くことが趣味の男の子が描いて下さいました。


運動すること、ゲームをすることが大好きと伺いました。

得意なスポーツは「フェンシング」と教えていただきました。

優しい瞳の素敵な男の子です。院長はじめスタッフ一同より感謝致します。



医療法人 優慶誠会

豊郷たちかわ皮ふ科クリニック*

2020年に東京でオリンピックが開催されることが決定しました。これを嬉しく思う日本人は大勢いるかと思えますし、私もその一人です。ところで、私達は2020年の東京オリンピックに何を期待するのでしょうか。

1964年東京オリンピックの前後、日本はスポーツの分野でも、社会経済の分野でも国をあげ「世界に追いつけ追い越せ」をキャッチフレーズに一丸となり、金メダル16個を含む合計29個のメダルを獲得し、更には高度経済成長を成し遂げ、日本の戦後復興を世界に示しました。そして、この時日本人は自らの努力により国民全体の生活の質を底上げし、生活を豊かにすることに成功しました。私見ですが、このことを考えると1964年のオリンピックは当時を経験した多くの日本人にとって、50年経った現在でも、良い思い出として心に残っているのではないのでしょうか。その理由は生活の質向上の実感にあったのだと予想します。

さて、7年後のオリンピックが無事成功する事を願うばかりですが、来たるオリンピックで景気が底上げされ、先の時代の様な国民全体の生活向上があるのでしょうか？私にはそうは思えません。

2020年オリンピック終了後、今の様に40年以上経ち当時を振り返った時、良い思い出として心に刻まれているのか。それとも思い出したくはない記憶になるのかは二分される気がします。2013年の今、働き盛りである20才・40才の人は40年後の2053年に60才・80才を迎えます。現在の10才の人も50才です。

私を含む彼等は2020年のオリンピックの時も日本社会の中心にいることになります。この7年間を真剣に生きることが、その後を決定するのです。

話を戻しますが、1960年代も生活にゆとり等はなかったはずですが。しかしゆとりがなくても一所懸命に働けば、それなりに還ってくるものがありました。だから私達の父や母は働いたのです。しかし、今はどうでしょう。私達40代を含め、それより若い人たちの一部には「がむしやら」「一所懸命」「無我夢中」等といったことが欠落している感が否めません。一つの仕事を長続きできないというのもそのためだと思います。「天職を求めるために転職を繰り返す」人がいますが、与えられたことを地道に継続しているうちに、それがいつの間にか天職になるのです。

日米通算4000本安打を達成したイチローが以前にこんな事を言ったそうです。「小さな事を積み重ねることが、とんでもない所へ行くただ一つの道だ」と。

たった一日ですら長いと感じる時もあれば、あっという間の一日だったと思う時がある様に、“7年間”を長いと感じるか短いと感じるかは考え次第です。

「石の上にも 3 年」冷たい石でも 3 年も座り続けていれば暖まってくるというというのが語源です。

また、新生侍ジャパンの監督に就任した小久保裕紀氏が言っていた言葉が印象的でした。「できるかできないかではなく、やるかやらないかである」と。私も見習いたいと思います。

院長・拝